

<認知症対応型共同生活介護用>  
<小規模多機能型居宅介護用>

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1490600077
法人名	特定非営利活動法人うえん会
事業所名	グループホーム銀の鈴2号館
訪問調査日	平成25年2月18日
評価確定日	平成25年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

**○項目番号について**  
外部評価は20項目です。  
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

**○記入方法**  
[取り組みの事実]  
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
[次ステップに向けて期待したい内容]  
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
家族 = 家族に限定しています。  
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490600077	事業の開始年月日	平成21年10月1日	
		指定年月日	平成21年10月1日	
法人名	特定非営利活動法人うえん会			
事業所名	グループホーム銀の鈴2号館			
所在地	( 240-0035 ) 横浜市保土ヶ谷区今井町892-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成25年2月7日	評価結果 市町村受理日	平成25年4月19日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>●行事やお楽しみ会は年度当初に計画を立てて、ご利用者、ご家族、自治会、近隣の皆様、ボランティア、職員が一緒になって楽しいひと時を過ごしている。日常的な外出には社会的リハビリとしての目的を持たせ、いきいきと日常生活を送っていただくための支援として実践している。</p> <p>●ご家族と、地域の皆様のご協力により地域の一員としてその人らしく生活できる介護支援に努めている。</p> <p>●管理者と職員は、実践と理論を重ね合わせるため、資格試験に挑戦したりホーム内外の研修に励んでいる。</p>
---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成25年2月18日	評価機関 評価決定日	平成25年3月31日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>①このホームは”うえん会”の経営である。1つ目の「銀の鈴」とは7, 80メートルしか離れておらず、「銀の鈴」実績を継続し地域との友好的な関係は強い。管理者は理事長の実娘で、管理者の強い意向で1ユニットでのホームとした。理念は、「銀の鈴」と同様、「心のケア」実践に向け、職員の努力、ご家族の協力、訪問の医師、薬剤師の理解を得て、利用者最優先の姿勢でケアを展開している。利用者は介護度1が4人、4, 5が5人と差があるが、各利用者の個別性として捉えており、それでも一人ひとりが自分らしく暮らすことが出来るよう、日々工夫に努めている。職員に対しては、福利厚生の実践に努め、資格へのチャレンジの勧め、資格手当設定など配慮している。また、利用者のケアのサポートとして、音楽療法の先生に協力を頂いている。JR保土ヶ谷駅からバスで20分位のところにあり、建物は2階建てで1Fが1ユニットのホーム、2Fが会議室、職員の休憩室となっており、2Fに繋がって屋上が広く展開されている。この屋上及び会議室では「銀の鈴」、「銀の鈴2号館」共同で勉強会、講演会、イベントを行い、利用者、ご家族、ご近所の方、自治会の方々も活用している。</p> <p>②地域との関係は、非常に良好である。敬老会などの自治会開催のイベントには「銀の鈴」「銀の鈴2号館」からも参加することが自然に行われ、ホームのイベント時には自治会のテント、机等を貸して頂く等、親密な関係が出来ている。東日本大震災を教訓に備蓄の充実についても再確認出来た。介護計画等については、評価実績表を中心として、実績表に利用者の観察、日常の課題、本人・ご家族の意向を全て集約し、これを基に介護計画書を作成している。</p> <p>③研修については、各職員には、研修会開催前に研修資料を読み込んでもらい、自身で考える機会を持ったうえで研修に参加出来るようにしている。資料の作成については、介護情報の公表制度の調査NO.に沿って項目出しをし、研修会を実施している。項目についての解説の他、関連情報も集めて”研修のマニュアル集”が出来ていた。情報の公表がこのように具体的に展開された事例は少なく、評価できる。</p>
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム銀の鈴2号館
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念の一つに「地域の一員として生活できる介護支援」を掲げ、地域の中で家庭的環境を作りその人らしく暮らしていることを支えている。また管理者と職員はその理念を共有して実践につなげられるよう話し合い、サービス提供に反映している。さまざまな行事開催を通して家族、地域の方々との交流を図っている。	法人の理念の一つに「地域の一員として生活できる介護支援」を掲げ、地域の中で家庭的環境を作りその人らしく暮らしていることを支えている。また管理者と職員はその理念を共有して実践につなげられるよう話し合い、サービス提供に反映している。今の生活を継続出来るように、経済面での負担を軽くする点も含めて職員の持っている能力の有効活用を目指し、少しずつ成果が出ている。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今井町自治会主催の行事（敬老会、盆踊り、七夕祭り）には積極的に参加している。自治会館を借りカラオケも楽しんだ。また行事に必要な備品・道具を自治会や市沢小学校に借して頂いた。銀の鈴主催の行事（流しそうめん、音楽会、耕作）には自治会と近隣の皆様をご招待している。地域の一員として、地域の方との交流を図り、双方向の関係を作っている。	自治会に加入し、今井町自治会主催の行事（敬老会、盆踊り、七夕祭り）には積極的に参加している。銀の鈴主催の行事（流しそうめん、音楽会等）への地域の方をご招待など相互に招待し合っている。ホームの行事の際には地域の一員として自治会のテントや備品をお借りするなど双方向の関係を作っている。音楽療法は取り入れて10年（銀の鈴含めて）になり、楽しんで参加してもらいながらも口腔機能や身体機能の維持を目標に含め毎週実施している。先生は雰囲気作りのため、ときには外国の服を着て歌を歌うなど工夫してくれている。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	区民会議の福祉部会の方々の訪問交流などを行う中で、認知症の方への理解や支援の方法を地域の人々に向けて発信している。またご利用者と職員が毎年、自治会の清掃活動や行事に積極的に出かけて行くことによって銀の鈴2号館のご利用者を理解してくれている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間6回の運営推進会議では、地域密着型サービス活動の実際、サービスの評価への取り組みなどについての報告や、方法などの検討をしている。地区センター、自治会館、地域の小学校などの利用可能情報をアドバイスとして受けている。会議のなかでは、同法人内の事業所（銀の鈴）での終末期ケアの実践における報告がされている。終末期ケアにおいては事業所で出来ること出来ないことなどの運営に関する話し合いも行われた。2号館においてははまだ終末期ケアの経験がないので、ここでの意見を今後のサービスに活かせるように取り組んでいく。	運営推進会議は年間6回実施している。メンバーは地域代表（3名）、民生委員、ご家族代表（4名）地域包括支援センターの方それに銀の鈴、銀の鈴2号館の関係者で2ホーム合同の運営推進会議として開催している。地区センター、自治会館、地域の小学校などの利用可能情報をアドバイスとして受けている。終末期ケアの実践における報告がされている。「銀の鈴」での終末期ケアの報告があり、事業所で出来ること出来ないことなどの運営に関する話し合いも行われた。2号館はまだ経験がないので、この意見を今後のサービスに活かせるように取り組んで行く予定である。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区の健康づくり係や福祉局に行く機会を作り相談支援を受けている。また市の健康福祉局介護事業指導課の担当者には事故報告書提出の相談など、日頃から連絡を取っていることで行政と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。介護認定更新や区分変更で相談連絡をまめにしている。運営推進会議議事録を区の担当者に届け、実情や取組みをを伝えている。特に市の臨地指導の際、介護計画書の評価の方法に関して指導を受けたことで、指導内容を実践できるように取り組んでいる。	区の健康づくり係や福祉局に行く機会を作り相談支援を受けている。また市の健康福祉局ともに行き来する機会を作り、日頃から連絡を取っている。介護認定、生活保護担当と相談連絡をまめにしており、毎月訪問している。特に市の監査の際、介護計画書の評価の方法に関して指導を受け、実践できるように取り組んでいる。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の定義（厚生労働省告示第129号）をホーム内に掲示し、ホーム内研修や外部研修により管理者及び全職員が正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。長く利用していただくうちにADLの低下・認知症の重度化により生命の擁護のためにやむを得ず一時的に拘束が必要と判断された場合は、家族と十分に話し合う場を設け、理解と同意をしていただく。「身体拘束等の理由・実施経過記録」を作成し、職員の正しい理解と認識に努めている。玄関の施錠については、家族会からの申し出により施錠している（防犯上と事故防止のため）。また、管理者は施錠を身体拘束の一種ととらえ、施錠に対する弊害もその場で説明している。防犯や事故のおそれの低い掃出しのベランダは常に開錠している。散歩や洗濯干し、その他利用者が出入りしたいときは、この掃出しのベランダから出入りしている。	身体拘束の定義をホーム内に掲示し、ホーム内研修や外部研修により管理者及び全職員が正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。どうしても必要なケースはご家族の了解を得た上「身体拘束等の理由・実施経過記録」を作成している。玄関の施錠については、家族会からの申し出により施錠している。また、その場で管理者は施錠に対する弊害も説明している。防犯や事故のおそれの低い1Fの掃き出しベランダは、常に開錠し、散歩や洗濯干しその他利用者が出入りしたい時は、このベランダを利用している。ベランダの開放で閉塞感はなく無い。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は、高齢者虐待とは具体的にどのような事を言うのかを学ぶために職員研修の機会をもっている（高齢者虐待防止法第2条3項, 4項）。ホーム内に虐待防止についてのポスターを貼って周知をしている。利用者が日常的に何でも話せる環境づくりに努めている。また職員のストレス解消にも配慮し、ミーティングの際あるいは日常的に意見や思いを表出できるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と職員に社会福祉士がいることで権利擁護に関する制度は、家族から申し出があった時には、成年後見人制度についての話し合いの機会を設けている。職員にはホーム内研修や外部研修の場を提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、契約に関する説明と納得が得られるよう、運営規定・契約書・重要事項の説明をしつつ、家族等の不安や疑問点を尋ねている。入居の際には再度意思の確認をすることで、理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情のホーム内窓口として「意見箱」を作り、いつでも無記名で受け付けをしている。意見箱は意見箱委員とご利用者等と一緒に月に2回開封する。また、外部の苦情受付窓口の存在を玄関に張っている。苦情等あった時は、記録をし、迅速に対応し、それらを運営に反映させてサービスの質の確保と向上に努めている。家族の面会時には個人カルテ、看護記録、観察記録を開示し暮らしぶりを伝え変化があれば知らせ、家族の意向は記録している。家族会や運営推進会議において、運営について意見や苦情を述べる機会を作っている。ご利用者は、意見・要望があれば日常的に職員に表せるよう配慮し、運営に反映させている。	利用者の意見、要望は日頃のケアの中から吸い上げ、アンケートも取っている。ご家族の意見、要望は、家族会、運営推進委員及び来訪時の面談から吸い上げている。面会時には個人カルテ、看護記録、観察記録を開示し、暮らしぶり、変化を伝え、家族の意向を記録している。また意見、要望を言えるよう、意見箱を設置し、外部の苦情受付窓口を玄関に掲示している。苦情等には迅速に対応し運営に反映させている。家族会や運営推進会議においても、運営について意見や苦情を述べる機会を作っている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ひと月の内に定期的に、管理者と複数の役職員が集合して運営に関するミーティングを実施している。その中で大事な決定事項に関しては、意見や提案を充分に聞く機会となり、反映している。役職員は利用者の状況をよく知り得ている存在であり、働く意欲の向上や介護の質の確保につながっている。一職員に関しては意見や提案を聞く機会を設けるため、ミーティングや銀の鈴との合同ミーティングを適宜提供している。	職員の意見は、原則的にミーティングで聞き反映するようにしている。利用者の状況を知る立場にいる職員の相談、意見、提案を受けることにより、働く意欲を向上させ、ストレスを軽減し介護の質の向上に繋がっていくように努めている。管理者と複数の役職員が集合して運営に関するミーティングを毎月1回以上実施し、職員の運営に関する意向を検討し反映している。職員の管理者への報告や相談は24時間受け付けている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者はシフトや勤務状況を把握している。労働条件については雇用契約を結び、労働基準にのっとった就業規則を遵守している。職員各自が向上心を持って働けるように職場環境・条件の整備に努めている。管理者は忌引き等のやむを得ない勤怠には、職員配置に全力で努め介護現場に欠員をつくらない。サービス残業を排除している。また休憩室にはテレビや冷蔵庫、コーヒー、ポットを設置して一息つける環境の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度当初に研修計画を立て、ホーム内外の研修を受ける機会の確保をしている。研修時は、時間外手当がつき、休日にあたっているときは休日手当が支給される。就業年月の経過により取得できる資格に関しては、働きながら取得できる機会を提供し、受験に必要な就業証明書を作成している。資格試験のための勉強会をホーム内でも開催し実践と理論を結び付けて介護ができるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者との交流を大切にしている。相互訪問等の活動を通じて、情報の交換を行うことで、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談では、本人に事前面接を実施し困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための信頼関係の構築に努めている。事前面接の時間の設定は午後のお茶の時間帯にすることで、くつろげる雰囲気作りに配慮し、ご本人が気持ちを表現しやすい工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族による入居相談のときは、見学を依頼しご家族自身でホーム内の雰囲気を感じ取っていただけるよう配慮している。見学時には家族が困っていること、不安なこと、要望に耳を傾けながら信頼を構築できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の時点より、情報を収集・把握することでアセスメントと課題の抽出をする。「その時」必要として支援を見極めている。それにより他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であり、日常の中で知恵を教わることが多々ある。持てる力を無理なく発揮できる場を提供しつつ暮らしを共にする者同士の信頼関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人の絆を大切にしながら、利用者の今後の人生を支えるために、職員は家族と緊密な関係を築いている。ご家族との日常的な相談・報告を通して情報を共有し合い協力して支えていけるように関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が穏やかに暮らせるように、馴染みの人との面会に制限を設けていない。外出、外泊も自由に行うことができる。 例えば年末年始の帰宅、故郷訪問、温泉旅行、彼岸・お盆のお寺参り、昔からの友人と音楽コンサートなど。これまで培ってきた地域や社会での人間関係が途切れないように継続的・積極的にかかわりを図ることで、利用者が安心と納得を得られるようご家族・地域の方々と共に支援している。本人の行きつけの場所や、楽しみにしている場所を訪れることで入居生活にもメリハリが付き不安が解消されている。 また、面会、電話、手紙に制限はない。	利用者が穏やかに暮らせるように、馴染みの人との面会に制限を設けていない。来訪は比較的多く、外出、外泊も自由に行っている。故郷訪問、温泉旅行、彼岸・お盆のお寺参り、昔からの友人と音楽コンサートなど。これまで培ってきた地域や社会での人間関係が途切れないように継続的・積極的にかかわりを図ることで、利用者が安心と納得を得られるようご家族・地域の方々と共に支援している。本人の行きつけの場所や、楽しみにしている場所を訪れることで入居生活にもメリハリが付き不安が解消されている。また、面会、電話、手紙に制限はなく、近隣の住民と果実や野菜の収穫をするなどの交流にも努めている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が自然に関われる雰囲気大切にしている。職員のさりげない気遣いで一人ひとりが孤立しない支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	脳梗塞を発症し1月末で退去された利用者は、急性期治療から回復期リハビリ病院に入院のため転院された。その後も、ご本人が銀の鈴2号館の様子を気にかけて、リハビリに励まれている。ご家族との連絡は続いており、相談や支援に努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各職員は、常にご利用者の日常生活における希望や意向の把握に努めている。また日々の暮らしの中で表情を汲み取るように勤め、個人カルテに記入し職員は情報を共有している。把握が困難な場合でも基本情報やアセスメントに照らし合わせ、ケアプラン会議などにより、本人本位に検討している。ケアプランを立案する前に家族と面談し、利用者や家族の暮らしの要望・意向を受けている。	各職員は、常にご利用者の日常生活における希望や意向の把握に努めている。また、日々の暮らしの中での表情を汲みとりに努め、個人カルテに記入し、職員で共有し、活用している。把握が困難な場合は、本人の基本情報やアセスメントに照らし合わせ、ケアカンファレンスなどにより、本人本位に検討し、実施に努めている。ケアプランを立案する前に家族と面談し、利用者や家族の暮らしの要望・意向を受けている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個別の基本情報とアセスメント表を作成し、家族等から生活歴や生活環境など、これまでのサービス利用の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の中でADLの変化を観察し、個別性の把握に努めている。通常の個人カルテの記録のほかに、必要情報を記録し、心身の状態の把握に努めている。特に共同生活においては、今までの生活歴や生活環境で培ってきた有する力等を、心身に負担にならないように発揮してもらう。役割を持っていただくことが刺激となり、活動性を引き出すことで居心地の良い場の提供に努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族・訪問医療の医師・訪問看護の看護師・看護師職員・介護職員等が、利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し現状に即した介護計画を作成している。具体例として、かつてIVHを使用していた利用者は、チームでつくる介護計画とモニタリングの実践の結果、今ではIVHを使用せず経口摂取で食事を楽しんでいる。かつ新しい義歯を作るまでに至っている。	介護計画等についてはケアマネ協会の方式を採用し、家族・訪問医療の医師・訪問看護の看護師・看護師職員・介護職員等で話し合い、意見を反映して作成している。画一的なケアを排除し、個別ケアを重視した現状に即した介護計画を作成している。個人カルテを、日勤、夜勤に分けて記録し、詳細に記録が必要な時は、個人カルテ2号様式に記録している。観察記録、看護記録、申し送りノートや管理者からの申し送りにより、気づき、実践、結果を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人カルテを、日勤、夜勤に分けて記録し、詳細に記録が必要な時は、個人カルテ2号様式に記録している。観察記録、看護記録、申し送りノートや管理者からの申し送りにより、気づき、実践、結果を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。情報の共有を効果的に実践できるように、計画作成担当者は記録に関する外部研修を受けた。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業としての施設的多機能は設けていないが、社会福祉士や栄養士、保健師の資格を持った職員が在籍している。本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応した個別サービスを多機能に提供することができる。具体的には、糖尿病の自己注射見守りや栄養士による食事指導、福祉・障害に関する相談など、IVHの点滴管理に対応できるよう協力医療機関や薬局、地域包括支援センター、区役所、市役所などの関係機関とともに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区センター・自治会・社会福祉協議会・地域の小学校等から、行事やお楽しみ会を実施する際に、備品や会場、駐車場を借用している。地域資源を活用させてもらうことで、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。特に自治会の敷地を借りて、大型バスで新江ノ島水族館に出かけた時には利用者と職員が安全にバスに乗り込むことが出来た。自治会長さんが利用者の体調を気にかけて声をかけてくれ、見送ってくれた。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者とご家族の希望により、馴染みの受診先での医療を受けることができる。月2回の内科一般、週1回の歯科医の定期往診体制を確立していることで、より適切な医療を定期的に受けられるよう支援している。かかりつけ医の通院の場合は、家族を介して情報交換を確実にしている。また週1回鍼灸師の往診があり希望者が受診している。看護職員が月に4回健康管理を実施しており、ご家族に対し定期的な報告を行う。また面会時に相談や要望を受けたり、医師及び医療機関とご本人及びご家族との間の橋渡しとなって支援している。	利用者のご家族の希望により、馴染みの受診先での医療を受けることができる。往診は内科月2回、歯科は口腔ケアを兼ねて週1回の定期往診体制を確立していることで、より適切な医療を定期的に受けられるよう支援している。かかりつけ医の通院の場合は、家族を介して情報交換を確実にしている。また週1回鍼灸師の往診があり希望者が受診している。看護職員が月に4回健康管理を実施し、ご家族に対し定期的な報告を行っている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師職員が月に4回健康管理を行うことで個々の利用者の体調の把握をしている。そして日常のかかりの中でのケアの方法や観察方法を職員にアドバイスをしている。看護記録はご家族にも定期的に發送し報告している。介護職員は看護師と協働して個々の利用者の情報や気づきを日常的に共有することで適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合はこまめに面会し、利用者と家族にとって不安や不穏のないように努めている。入院先に介護サマリーを提供し病院との情報交換に努めている。入院中に食事の介助をするために職員が面会したり、リハビリの様子を観察しに行き、退院後はホームでの生活に即対応できるよう配慮している。病院関係者とご家族が今後の治療方針を決めたり、退院時の面談を行う時には同意を得てホーム職員が同席させていただくことで病院関係者とも関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に係る指針（重度化と終末期）により、利用者と家族の希望を伺い、書面の提出を受けている。利用者が重度化、看取りの必要が生じた場合、かかりつけ医、訪問看護師と家族と職員が協力し、統一した意見の下でチームとしての支援に取り組めるよう準備をしている。利用者、家族の意向をその都度汲みとり、また職員の力を総合的に判断しながら事業所のできることを説明し、話し合いながら方針を共有できるよう取り組んでいる。	重度化に係る指針（重度化と終末期）により、利用者と家族の希望を伺い、書面（重度化に係る指針の同意書）の提出を受けている。同意書がある場合、ご家族の希望に沿い、医療関係者と職員が協力し、統一した意見の下でチームとしての支援に取り組んでいる。利用者、家族の意向をその都度汲みとり、また職員の力を総合的に判断しながら事業所のできることを説明し、話し合いながら方針を共有できるよう取り組んでいる。訪問医は看取りの経験、緩和ケアの知識が豊富であり、看取りの可否も判断して頂いている。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員研修で「事故防止の基本と危機意識」について全職員が学んでいる。喉に詰まった時、血糖値が下がった時、など色々な急変や事故発生の場面を想定し、マニュアル作成と訓練によるホーム内研修を行っている。具体例としては、喉に食材が詰まるアクシデントがあり連絡を受けた看護師職員が吸引を実施したことで、事なきを得た。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常食、カセットコンロ、オムツ、毛布等の備蓄をし、備蓄場所も数箇所に分散している。地域の方が備蓄場所を提供してくれている。備蓄品は定期的に点検を行っている。近隣の協力を得て行っている年に2回の避難訓練では、避難方法を身につけるとともに職員とご利用者は防災ずきんのかぶり方も身につけている。夜間を想定した訓練も実施。 非常時の飲料水の確保として建物オーナーが井戸を掘ってくださった。銀の鈴2号館では井戸用水浄水器を購入したことで運営推進会議や行事を通して地域の皆さんに貢献できることを周知した。非常時には近隣の皆さんに飲料水として提供する。	年2回避難訓練を実施している。訓練の際は、近隣住民や自治会の参加協力を受け通報訓練・避難訓練・消火訓練を実施している。東日本大震災以降、非常食、飲料水、オムツ等の備蓄をし、備蓄場所も数箇所に分散し定期的に確認を行なっている。開設時からスプリンクラーは設置してある。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の保護についてはホーム内研修、外部講習会で学んでいる。「その人らしい生き方と尊厳を守る」という法人理念の一つに基づいて、常にご利用者の人格を尊重した支援を実践している。また呼称は様付けでお呼びし、敬語を使用している。ミーティングでは介助の方法や声かけについて、一人ひとりの状況に合わせたプライバシーの確保や守秘を徹底するように話し合っている。必要時にはケアプランとして立案し、言葉だけでなくジェスチャーやアイコンタクトを活用して対応することを統一している。記録等個人情報の取り扱いには十分に配慮している。個人情報等、書類の保管は2階多目的ホールの書類保管庫にて行い、必ず施錠をし守秘の徹底に努めている。ご家族からの要望をうけ、面会簿をファイル式から一枚の帳票に作り直した。毎日の記録綴りはリビングの書庫に保管しているが、その棚にも簡易施錠した。	人格の尊重とプライバシーの確保は運営方針として重点的に取り上げている。敬語・呼称についてや、個人情報の取り扱い、プライバシーの確保・守秘を、常に職員に徹底・定着を図っている。個人情報の使用目的と制限についてホーム内に掲示し、利用者と家族のプライバシーへの守秘義務は就業規則に明記し実践している。記録等個人情報の取り扱いには十分に配慮し、個人情報は2階多目的ホールの書類保管庫にて保管し、必ず施錠をし、守秘の徹底に勤めている。トイレは居室に付いておりプライバシーが確保されている。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	例えば、利用者に日々の食事の嗜好や、自分の誕生日会でどんな食事をしたいかの思いや希望を尋ね、自己決定できるように働きかけている。 また食材の買い物に同行する利用者には、食材の選定をすることで自己決定を促している。 入浴や外出時の洋服の希望など自己決定の場を折にふれ、表出できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	運営方針に基づき、一人ひとりの息遣い・呼吸に合わせた介護支援の実践に努めている。職員の都合による業務を優先することなく、起床時間や食事の時間、休息、入浴、散歩など、個々のペースに合わせて、その日をどのように過ごしたいか、可能な限り希望に沿った日常の支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の好みに合った服を着ていただいている。月一回の理容師の訪問があり、毛染めやパーマなど、希望に沿ったおしゃれを支援している。これまでの習慣を大切に、自宅から持参した化粧品を日常的に使用したり、ご希望によりマニキュアをしておしゃれを楽しむこともできている。自己決定を表出することが困難な利用者には、職員が身だしなみを整える支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物は、職員とご利用者が一緒に行い、旬の食材や、嗜好品を購入し、食事が楽しみなものになるように支援している。自宅から使い慣れた茶碗、湯飲み、箸など持参している。ご利用者と職員が一緒に献立を考え食事作りや片づけを行うことは、これまでの暮らしを継続することで、ご利用者の有する力を生かすための支援として実践している。また、食事は職員も一緒に楽しく食べるようにしており、介助する一方ではない。ご利用者が庭で作ったり、地域の畑で作った旬の野菜や果物をいただき食卓に取り入れている。	献立は独自で作成し、食材の買い物は、職員と利用者が一緒に行き、旬の食材や、嗜好品を購入し、食事が楽しみなものになるよう支援している。使い慣れた茶碗、はし、湯飲みなど持参して頂き使用している。利用者と職員が一緒に食事作りや片づけをし、持てる力を活かしている。また、食事は職員も一緒に楽しく食べるようにしており、介助する一方ではないようにしている。ご利用者が庭で作ったり、地域の畑で作った旬の野菜や果物をいただき食卓に取り入れている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事を作るときは、個々の食べられる量を勘案しながら食材の組み合わせによる栄養バランスを考えている。必要な利用者によっては水分摂取量を正確に記録をつけ1日を通して必要量を確保できるように支援している。また栄養士から個別にアドバイスを受けている。カロリー制限や疾病のあるご利用者には、医師や看護師の指示を受け、食事を提供している。カロリー換算表を作成し職員の誰もが目安を立てられるように工夫している。個別の状況を内科医、歯科医師らと共有して、一人ひとりの歯の状態、咀嚼力、嚥下状態、消化力、活動性など総合的にとらえて食材や食形態を選択し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週一回の訪問歯科医による口腔ケアを実施している。職員は歯科医師または歯科衛生士に一人ひとりの口腔状態について説明とアドバイスを受けている。また、毎食後は習慣に基づいた歯磨きができるように支援をし、利用者によっては職員が磨き残しの確認やフォローを行っている。義歯は毎夕食後に、入れ歯用のつけ置き洗浄剤を使用することで清潔を保持している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄状況、パターンを把握し、定期的にトイレ誘導に努め、可能な限りトイレでの排泄を促し、オムツの使用量を減らす努力をしている。また、居室にトイレを設置していることで、特に夜間の排泄が間に合わないことの防止になっている。気兼ねなく気持ちよく居室で排泄ができる。具体的にはイーザーウォークでの下肢リハビリを行なった結果、下肢筋力が付き排泄の自立に繋がった。そこから妄想が穏やかになり、他者とのコミュニケーションも活発になった。排泄の自立が生活全般の活性化にも繋がると学び、より一層の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄状況、パターンを把握し、定期的にトイレ誘導に努め、可能な限りトイレでの排泄を促し、オムツの使用量を減らす努力をしている。居室にはトイレが設置され、プライバシー保護に役立つと共に、特に夜間の排泄が間に合わないことの防止になり、また、気兼ねなく、気持ちよく居室で排泄ができるのは良い。左記の通り、下肢リハビリにより下肢筋力が付き自立に繋がった実例もある。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には食物繊維を多く含むものを提供したり、水分の補給のためにお茶、スポーツドリンクを使用して便秘の予防に取り組んでいる。また、腸の動きを良くするマッサージ、体操をしたり、気分転換と全身運動とを兼ねて散歩に出かける。個々の排便パターンを把握したり、必要に応じてかかりつけ医に相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	可能な限り、本人の意向に沿った方法（湯船やミストシャワー、夏場のシャワー）や日時を考慮している。また羞恥心や恐怖心等への配慮をし、担当職員や介助の方法を変えている。同性の介助を希望される方にはその要望をくみ取り同性介助を実施。季節により、菖蒲湯、ゆず湯、冬場は入浴剤を入れるなど、入浴を楽しめるように支援している。1時間位、半身浴をし満足するまで入浴を楽しむ利用者がいる。また入浴を実施しない時でも足浴を行うようにしている。	可能な限り、本人の意向に沿った方法（湯船や夏場のシャワー）や日時を可能な限り考慮している。また羞恥心や恐怖心等への配慮をし、担当職員や介助の方法を変えるなど配慮している。季節により、菖蒲湯、ゆず湯などを使用し、冬場は入浴剤を入れるなど、入浴を楽しめるように工夫している。入浴を拒否される場合は、職員が協力して、入浴への負担の軽減や、入浴がくつろぎの空間であると言う気分の創出に努め入浴へ繋げる支援に努めている。また入浴を実施しない時でも半身浴、足浴を行うようにしている。同性の介助を希望される方にはその要望をくみ取り同性介助を実施している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の休息のペースを掴み、日中希望があれば昼寝をしていただく。就寝時間は特に決まっておらず、体調に合わせた希望の時間に寝ていただく。また、本人の生活習慣を尊重し、起床時間も決めていない。日光浴や買い物・散歩など適度な運動をすることにより、夜間の安眠に繋げている。更に気持ちよく休息できるよう寝具を清潔に保ち、ベッド周りの環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医から処方された薬は、薬局からの効能書きを個別にファイルし、職員は、薬の目的、副作用、用法用量について十分に理解できるよう服薬マニュアルを作成している。特に医師の指示で薬が変わった時には、記録や申し送りを確実にしている。職員は服薬の支援と症状の変化の確認に努め、医師や看護師や薬剤師に相談できる体制となっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や有する力を活かして、家事や庭仕事などの役割の支援を行っている。他のユニットに向いて手伝うことが張り合いになっている利用者もいる。耕作、野菜の収穫、動物介在介護（抱く、散歩）、音楽療法など行っている。また、お花見や各種行事（運動会や演奏会や食事会）は楽しみごと、気分転換になっている。またその思い出を写真に残し掲示することで後々も思い出すことができ日々の張り合いにつながられている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望に沿って自由に散歩に出かけられるよう支援に努めている。散歩に出かける方、戸外で日光浴をされる方、職員と食材の買い物に出かける方、他のユニットへ家事の手伝いにて出かける方、昔馴染みの土地に行かれる方、家族との温泉旅行での外泊、ドライブ、法事での地方のお墓参りなど利用者本位のこれまでの生活を継続した外出支援を家族や地域の方々とは協力し合って実践している。これらは社会的リハビリの目的も兼ねており、車椅子の方も外出されている（例えば新江ノ島水族館、根津神社のつつじ祭り、毎年同じ桜の木を観に、ピアノコンサートなど）。	個々の希望に沿って自由に散歩に出かけられる体制となっている。散歩に出かける方、戸外で日光浴をする方、職員と買い物に出かける方、家事の手伝いにかかる方、家族との温泉旅行での外泊、ドライブ、法事での地方のお墓参り、利用者本位の支援を行っている。日向ぼっこは天気の良い日は毎日でも行えるよう努めている。また、昔住んでいた馴染みの土地に行かれる方、車椅子の方も外出されている。また、果物や野菜の収穫など地域の方々の協力でも外出される時もある。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則的には、家族が必要なものを持参される。また必要となった品は、家族が持参される。（お金を所持することは家族の意向による。）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	固定電話の他に、ご家族にのみ番号を開示している携帯電話を設置し、いつでもご家族からの電話を取り次げる。また、ご利用者からの申し出があれば、自由に使用していただけるよう支援している。絵手紙や年賀状などが届いたらやり取りができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは、掃き出しの窓になっており、四季の風物を堪能できるようになっている。庭はご利用者とともに土を耕すところから行い季節の野菜や花木を育てている。季節の切花、植木、観葉植物を常に飾っている。昔から花の手入れが得意なご利用者がシクラメンやアマリリスの世話を担当して咲かせ、皆さんで花を楽しんでいる。また、特注の門松、正月飾り、雛人形、節句人形、お月見のお供えなど、季節の風習を取り入れ季節感を味わっている。また、飾りつけは幼稚にならないように気をつけ、家庭的な雰囲気づくりに気をつけている。お楽しみ会・お誕生会などの写真が貼ってあることで、空間認識ができてよいと運営推進委員会での意見も出た。共用空間は絶えず清潔を心がけ、ご利用者とともに毎日掃除を徹底している。更に清掃専門業者に年間2回の清掃を依頼している。24時間空気清浄機を稼働し、温度・換気・湿度の管理に配慮し、居心地よく過ごせる工夫している。	リビングは、掃き出しの窓になっており、四季の風物を堪能できるようになっている。季節の切花、植木、観葉植物を常に飾っている。また、また、特注の門松、正月飾り、雛人形、節句人形、お月見のお供えなど、季節の風習を取り入れ季節感を味わっている。行事・お楽しみ会・お誕生会などの写真が貼ってあることが楽しみと空間認識ができてよいとの意見が出た。共用空間は絶えず清潔を心がけ、毎日掃除を徹底している。業務上生じる不快な音は極力排除する心がけをし、24時間空気清浄機を稼働し、温度・換気の管理を徹底している。採光もカーテンや直接光・間接光・昼白色・電球色を考えながら調節している。また、飾りつけも華美にならないように気をつけ、家庭的な雰囲気づくりに気をつけている。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では気のあった利用者同士で過ごせるよう自由にテーブル、椅子を配置している。また、会話をしてみたい方、テレビを見たい方、音楽を聴きたい方それぞれに居場所を確保できるようにしている。音楽療法や風船バレーなどサービスに応じて席も自由に移動している。また廊下にもソファや椅子を置き、気の合った方同士座って語らせるように、あるいは1人でもくつろげるようにしている。2階のベランダや多目的室も活用している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が家庭で使い慣れたものや、思い出のあるものを持参している。思い出に家具の配置やコーディネートを行うことで、その人らしく居心地よく過ごせるよう工夫をしている。例えば、仏壇、タンス、鏡台、時計、家族の写真など、自宅使用の馴染みのものを持参している。居室にCDラジカセを持参してクラシックを楽しみながら、のんびりと一人の時間を送っている利用者もいる。	本人が家庭で使い慣れたものや、思い出のあるものを持参して、思い出に家具の配置やコーディネートを行い、居室で心地よく過ごす工夫をしている。例えば、仏壇、タンス、鏡台、時計、家族の写真など、自宅使用の馴染みのものを持参している。居室にはトイレが設備されている。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、階段、共同トイレ、浴室、居室トイレには手すりを設置している。2階の多目的室やベランダに行くときにはエレベーターが設置されている。身体機能に応じて使用している。両側に手すりがある階段は自発的なリハビリの機会となっている。また居室ドアの前には表札、家族と本人の思い出の写真を掲示するなど「分かること」を活かす工夫をしている。入浴では浴槽に入る時に、足が上がらない利用者には回転シャワーチェアを使用して、安全・安楽に入浴できる支援をしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム  
銀の鈴2号館

作成日

平成25年2月18日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	29	災害時の対応について現在の備えや安全対策を広い視点から学ぶ必要がある。	地域の防災訓練に参加することで具体的な実技を習得する。全職員に指導をする。	外部(自治会)の避難訓練に参加し、①非常持ち出し袋の中身②発電機の使い方③簡易トイレ作り④備蓄品⑤炊き出し訓練などを学んできて、その知識を災害時に生かす。	一年間
2	18 19	地域密着型サービスの評価項目に基づいた、銀の鈴2号館の運営やサービス活動をより分かりやすく周知する必要がある。	外部評価(自己評価)をご家族と職員、協力医療機関、運営推進委員が共有することで、より良い地域密着型サービスを実践する。	《銀の鈴2号館新聞》を発行して、自己評価に基づいた運営・活動を写真入りで掲載することで、ご利用者の日々の暮らしを紹介する。	一年間
3	7 26	職員一人ひとりがより意欲的で積極的に、ご利用者本位の視点を持てる体制を作る必要がある。	ミーティングを、職員一人ひとりが参加意識と問題意識を持って取組み、一層の介護の質の向上に努める。	①より一層、自主的に意見や感想を述べられるようにミーティングを工夫する。 ②主体的に課題を見つけ出し、指導を受けながら解決するための方法を自ら探す。 ③上記を発表できる場を提供する。	一年間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。